

彦根市立高宮小学校

しょうとく まこと

少徳 信さん

## Profile

滋賀県出身。2020年3月教育学部初等教育コース初等教科専攻国語専修卒業。同年4月に彦根市立河瀬小学校、2023年4月に彦根市立高宮小学校に着任。現在は3年生を担当として受け持ち、国語主任、滋賀県や彦根市の郷土教育主任、「情報」の助任を務める。学生時代に追究した俳句をライフワークとし、俳句教室でも活動している。

## 3人の“先生”に導かれて教師の道へ 国語の魅力と重要性を伝えたい

### 教職科目だけでなく ゼミでは俳句の研究にも熱中

私の両親は小学校の教員でした。二人が家で、学校での出来事や子どもたちの成長をうれしそうに語り合っていて、それを聞くことが私の日常のひとこまでした。加えて、中学時代の担任の先生の熱心な指導に感動したこともあり、私が学校の教員をめざすようになったのは自然な流れだったのかもしれませんが。

滋賀大学の教育学部は学習内容と教員採用率が高いこと、さらに父が滋賀大学大学院教育学研究科で学んだ縁もあり進学を決めました。最初は中学・高校教諭をめざすつもりでしたが、両親が「理科の実験で盛り上がった」「音楽の授業が楽しい」など話していたことを思い出し、小学校教諭専攻に決めました。

大学では国語専修に在籍して学びました。私は古典文学が好きで、趣味で俳句を詠んでいたため、『古事記』『万葉集』が専門の井ノ口ゼミに所属。井ノ口先生と五・七・五の短い文字数に凝縮された俳句の奥深い世界を語り合うことが楽しく、卒業論文では松尾芭蕉を研究、執筆しました。

### 子どもの成長のために 「教える」ではなく「見守る」

入学時から子どもを対象にしたイベントに参加し、4年生の時には小学校のスクー



ルサポーターを務めていました。その中で気付いたのは「見守る」の大切さです。私が一方的に教えるのは、子どもが自ら考えなくなります。答えを求めて考えることで子どもは成長するので、今も「見守る」を大切にしています。

現在は彦根市内の小学校で、3年生の担任をしています。授業で児童たちが試行錯誤をしながらも、前向きに取り組めるにはどうすればいいかを考え、授業の準備内容を深めていきます。そう考えると、教師の仕事は、とてもクリエイティブです。特に私の専門である国語は児童自身が言葉や内容を受け止め、自分の言葉で表現することが大切なので、授業には一段と工夫が必要です。先日、国語が苦手な児童が「文章を読んで考えるのが楽しい。国語の日は休みたくない」と言ってくれたことは教師冥利に尽きました。

### 教員採用試験では経験豊富な 先生の指導が心強い

滋賀大学教育学部には教員採用試験に携わった経験を持つ先生が多く、小論文や面接などを細かく指導いただきました。学生同士の絆が深く、勤務先や研修先で同窓の先輩や後輩に会う機会も多くあります。こういった教師仲間ができることもありがたいですね。

学生時代、国語は学習も指導も難しいという友人がいましたが、数学の問いを解く際に問題文を読解する力が必要なように、国語はすべての科目につながっています。卒業生として国語を専攻する人が増えることを願っています。

